


## 2022年度 研究サマリー

研究会名称	千葉大学先端応用外科学記念教室記念事業	
代表者所属	千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学 教授 千葉大学第二外科・先端応用外科 同門会 副会長	
代表者氏名	松原 久裕	
<p>研究方法・結果</p> <p>2022年度においては、計画に基づき下記の研究等を行った</p> <p>1) 千葉大学先端応用外科教室記念事業：2026年には教室開講100周年を迎えるため、記念事業を予定している。教室における業績を振り返り、進歩の過程を検証することを目的とし、これを見据えて運営会議を5回開催し、準備を行った。優れた外科手術手技の伝承に寄与すべく過去の膨大な手術記録を整理し、今年度も貴重な映像のデジタル化を進めた。また、教室出身者は他の医療機関にて指導的立場で研究を続けた者も多く、学内のみならず広い範囲での資料収集を引き続き行った。</p> <p>2) 第67回国際外科学会日本部会総会の開催：2022年6月に当教室主催の第67回国際外科学会日本部会総会を開催した。コロナウイルス感染症の蔓延のなか、現地開催となった。千葉大学先端応用外科学教室の歴史、業績を整理し、その研究内容を英語にて発表した。</p> <p>3) 食道癌、胃癌、大腸癌および腎臓移植における治療成績向上のための基礎及び臨床研究、手術法の開発：消化器癌の発癌、転移、浸潤などのメカニズムを解明し、さらに治療に応用すべく基礎的研究を継続している。また、それぞれの疾患分野にて診断治療の最先端となる臨床研究も進めており、学会発表、論文発表を行った。ロボット手術などの新規手術症例数も着実に増加している。腎臓移植においては、着実に臨床数を増やしており多くの患者様に恩恵をもたらしている。</p> <p>4) 献体を用いた先端的手術手技研修会の開催：外科学全般における先端的な手術手技啓蒙のために、2021年度はライブ中継の下準備として手術リハーサルを行い、当日のバックアップのための手術手技ビデオ制作を行ったが、これらのビデオを第122回日本外科学会学術集会(熊本)で放映した。それに引き続き2023年2月に第一回手術手技CALセミナーを開催した。</p> <p>5) 腎臓移植に関わる教育啓蒙活動：2022年10月臓器移植についての市民公開講座を後援した。また2022年5月に千葉県立幕張総合高等学校、2023年1月に淑徳大学において、臓器提供、腎移植に関する講演を行った。</p>		
<p>研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）</p> <p style="text-align: center;">次葉に続く</p>		

研究成果（論文・学会発表・雑誌掲載等）

○学会発表

丸山 通広、「当院における HIF-PH 阻害薬を用いた腎移植患者の貧血治療作戦」  
一般口演 13、第 58 回日本移植学会、2022 年 10 月 13 日、名古屋

丸山 通広 「腎移植後尿管狭窄に対する経腹的自己尿管移植腎盂吻合」  
一般口演 11、第 37 回腎移植・血管外科研究会、2022 年 6 月 17 日、名古屋

○講演

丸山 通広 安房「腎移植セミナー」  
当院における COVID-19 感染下腎移植の現状 -免疫抑制剤の調整は必要か-  
2022 年 7 月 29 日 千葉市 (WEB 形式)

○雑誌掲載

丸山 通広、遠藤悟史、木下和也、佐々木拓馬、貝沼駿介、森下弘基、大平 学、今西俊介、  
栃木 透、丸山哲郎、松原久裕  
「COVID-19 パンデミック下の献腎移植」  
総説、日本臨床腎移植学会雑誌、 10(2):162~167、2022

佐々木拓馬、丸山通広、大平 学、今西俊介、遠藤悟史、栃木 透、丸山哲郎、木下和也、  
貝沼駿介、森下弘基、松原久裕  
「HIV 陽性血液患者に対する生体腎移植術」  
総説、日本臨床腎移植学会雑誌、 10(2):232~234、2022